



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第35号(R4. 11. 15)

陸上部、駅伝県大会で男女アベック入賞の快挙!

～ 女子4位 男子6位 ～

河東中陸上部がまた快挙です。11月12日(土)博多の森陸上競技場周回コースで開催された第73回福岡県中学校駅伝競走大会での快走です。この日、例年になく高温を記録し、駅伝を走るには暑い中でレースとなりました。女子は5区間38分42秒で4位。男子は6区間1時間7分42秒で6位。

9年生5人が選手として出場しましたが、これで今年の9年生の中体連がすべて終了となり、有終の美を飾りました。なお、8年生の中園桜子さんと橋本隆太郎さんは、11月19日(土)に行われる2022年度全国都道府県対抗男子・女子駅伝大会選考会に出場することが決定しました。引き続き応援しましょう。

技術部もロボットコンテストで5位入賞! 九州大会へ進出決定!

技術部もロボコン県大会で好成績を収めました。11月12日(土)博多高校で開催された第26回創造アイデアロボットコンテスト福岡県中学生大会で5位を獲得しました。9年生の岩下蘭丸さん、三船元太さん、石田逢琉さんは、計測・制御部門審査員特別賞を受賞しました。九州大会は、12月3・4日に長崎県雲仙市小浜体育館で行われます。みんなで応援しましょう。

サッカーの王様・ペレが最も大切にしていたこと

～ Everything is practice. (すべては練習の中にある) ～

来週、いよいよワールドカップが始まります。11月20日(日)に開幕する「4年に1度の祭典」、FIFAワールドカップ・カタール大会、初の冬季開催です。地球上で何十億人もの方が楽しみにしています。ところで、サッカー史上、誰が一番うまいのか?と問われれば、我々の世代ではブラジルのペレを上げる人が多いと思います。「20世紀最高のサッカー選手」「サッカーの王様」と評される選手です。15歳でプロデビューし、1977年に引退するまで、22年間で通算1363試合に出場し1281得点を記録しました。ワールドカップにはブラジル代表として3度出場しエースとして優勝に導きました。



ペレは、試合で結果を出すことよりも、練習を大切にする選手でした。Everything is practice. (すべては練習の中にある)という彼の言葉は、たいへん重みのある言葉です。この短いフレーズの中に、何が込められているかを想像してみてください。「サッカーで一番大事なことはインスピレーション(ひらめき・直感)」もペレの言葉ですが、彼は練習の時、ただ体を動かすのではなく、頭をフル回転させ、人と違ったプレーを心がけていました。彼のドリブルは意表を突くオリジナリティあふれるものでファンを熱狂させました。

最後に、ペレの言葉をもう一つ。華やかなプレーの根底にあった彼のサッカーに臨む姿勢を表しています。「試合に勝つ唯一の方法はチームとしてプレーすることだ」

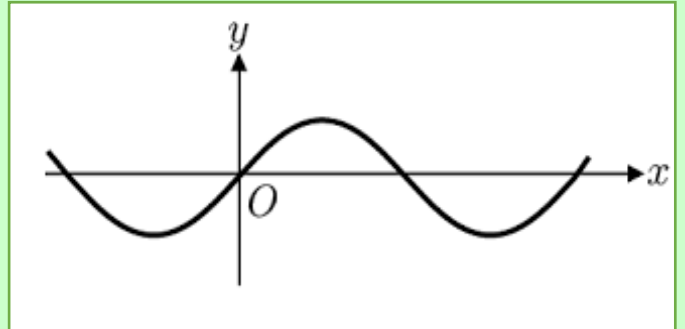
いやなことが10あれば、いいことが10ある？

～ 森信三先生のサインカーブの教え ～

人間の一生を、良いこと悪いことの天秤にかけると釣り合う、プラスマイナスゼロという考え方があります。

今年も残すところ一か月余りとなりました。今年一年で読んだ本の中で、最も感銘を受けたのが森信三先生の『続・修身教授録』という本です。この本は、昭和13年に大阪の教員養成学校(現・大阪教育大学)(赤間にある福岡教育大学のような学校)での森先生の授業の様子をまとめられたものです。教師の卵に、森先生が修身(今の道徳)について39回授業した全記録です。当時の講義を学生がノートしたものを今年編集して出版されました。この本の中の16回目の授業の内容を中学生にもわかるようにかみくだいて紹介します。

16回目の授業のテーマは、「人の一生には、自分にとって良いことも起こるが悪いことも起こる。思い通りになることもあれば、思い通りにならないこともある。むしろ、思い通りにならないことの方が多いと誰しも思いがちである。出来事も勉強もスポーツや芸術でも、恋愛や人間関係でも。しかし、実は人生はサインカーブ(正弦曲線、高校の数学で習います。右図)のように嫌なことが10あれば、いいことが10ある。嫌なことが1回あったら、自分の知らないところで自分にとっていいことが1回起きているものだ。」というものです。



森先生いわく、「このように不運や不幸というものは、確かに一面からは損失といってよいわけですが、しかも天はすごく公平でありまして、こちらで損失を起したら、他の方面で必ずその償いをしてくれるものであります。」—ここで注目すべきなのは、良いことと良くないことが別の方面で起こることです。だから、人間はこのことに気づかないというわけです。それで、多くの人はこちらかにかたよって捉えがちになるということです。この点を森先生はさらに詳しく説明されます。

「このさい注意を要する点は、この失われたものに対して新たに与えられるものは、その性質が、失われたものと、必ずしも同じ種類のものではないということです。いや、多くの場合それはまったく別種のものであり、またその与えられる方向も、全然違った方面において与えられるのが常であります。

このようなわけで、神はわれわれから一つの物を取り上げられた場合、その代償として必ず何か別の物を与えられるのであります。」

例えば、病気をした人がいるとします。病気という自分にとって良くないことが起これば、健康とは違った種類のもので良いことが償われるものだというわけです。森先生はさらにこう続けます。

「すなわち、人生というものは、予定通りにゆくことが、必ずしも最上とは限らぬということです。

実際わたくしたちは、自己にとって最大の期待の破れたような場合、そうした悲しみのどん底において、深い新たなる光明に接するのであります。かくして人生の真の妙味は、いわゆる予定通りに進行することではなくて、自分の立てた予定のくずれゆく時、しかもそこにより深い人生の意義を発見するところに味わわれるのであります。したがってまた、人生に対してこのような根本態度の確立している人にとっては、いかなる不幸も、決して単なる不幸に終わるものではないわけです。なるほど一面からは、確かに不幸には違いありませんが、しかもそれを機会として、より大いなる幸福を得るのが、すぐれた人の人生態度であります。」

この回の授業は、思い通りにならない時、不運にみまわれた時、落ち込みそうな時の対処方法が語られたものです。この授業を受けた学生は、戦後、教師となって子どもたちを力強く導いたことでしょう。

さて、河東中のみなさん、何か自分にとって良くないことが起こったら、その分、別な種類や分野で同じだけの良いことが起こると思ってください。また、何か自分にとって良いことが起こったら、—さらに良いことが起こると思ってください。なぜなら、138億年前、針の先程小さな粒子が大爆発して宇宙が誕生して以来、宇宙は増大し発展しているのだから、宇宙も良い方に進化し発展している途上にあるのですから。